



常葉大学の「合同企業説明会」で自衛隊幹部の魅力を紹介



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、3月8日（木）、グランディエールブuket（静岡市）において、常葉大学が主催した「合同企業説明会」に参加した。

この説明会は静岡県内に所在する企業や団体が出展し、同大学の3年生に働く魅力や仕事内容等を紹介するとともに、学生が持つさまざまな疑問・質問に答えるもの。当日は、防衛省・自衛隊を含む3の企業・団体が各ブースに分かれて学生と向き合い、訪れた学生の関心事項一つ一つに丁寧に説明を行った。

自衛隊ブースでは、静岡募集案内所長が3月1日から受付を開始した「一般幹部候補生採用制度」に関する説明を行ったほか、自らの経験から大学卒業後に一般曹候補生として入隊し、曹士階級での現場勤務経験後に部内の幹部候補生選抜試験を経て幹部となるキャリアプランなどについても説明した。

学生からは「幹部候補生学校を卒業したら自分の父親のような年齢の部下を持つことになるが、人間関係はうまくいくか」「自衛隊の勤務で、眼鏡をしていて不便なことはないか」といった具体的な質問があり、静岡所長は幹部自衛官として培った知識や経験から、時にユーモアを交えながら「多くの先輩が悩みつつも立派に任務を遂行している」と具体例を挙げてアドバイスを行った。

静岡地本は、今後もこのような学生に直接説明できる機会を積極的に活用し、防衛省・自衛隊の幹部になる魅力をより多くの学生に伝え、熱意ある志願者を獲得できるように努めていく。

先輩隊員が母校の「進路懇談会」で自衛隊をPR



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、3月13日（火）、県立浜松湖北高等学校（浜松市）において開催された「進路懇談会」に参加した。

これは、新年度から就職活動を始める生徒たちの職業に対する意識形成の充実を図るため、卒業生から社会人としての生の声を聞くことで就職活動に備えてもらうという開催された。懇談会にはさまざまな業種の企業や公的機関等が参加し、公務員ブースには25人の希望者が訪れ、自衛隊員や消防職員の先輩との懇談に臨んだ。

自衛隊からは、同校卒業生で現在は航空自衛隊浜松基地第2術科学校で勤務している伊藤拓真空士長が参加。伊藤士長は、自衛隊の概要説明のほか、入隊のきっかけや現在の仕事のやりがい、隊内生活の様子などを写真を使いながら分かりやすく紹介した。

説明を聞いた生徒からは「訓練の厳しさ」や「休暇の取りやすさ」について質問があり伊藤士長は一つ一つ丁寧に答えていた。

最後に「人の役に立つ仕事を求めているなら、ぜひ自衛隊にもチャレンジしてほしい。また、学校での勉強にもしっかり打ち込んでさまざまな知識を身につけて視野を広げてもらいたい」とアドバイスし、先輩に力強くエールを送った。

静岡地本は、今後も先輩が母校の後輩に直接語りかけることができる機会を通じて若者の自衛隊に対する正しい理解促進を図るとともに、将来の自衛隊を支える人材の確保に努めていく。

「本年度最終募集試験」に向け街頭で本部長等が広報活動



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、3月14日（水）、静岡県主要市町において、3月26日（月）に実施する今年度最後の実施となる「自衛官候補生採用試験」の志願者獲得に向けて街頭広報活動を実施した。

当日は、本部長をはじめとした本部募集課員、静岡募集案内所員、清水募集案内所員がJR静岡駅と静岡鉄道新静岡駅前、県西部地区では、浜松出張所員及び袋井地域事務所員がJR浜松駅及び袋井駅周辺において、本年度最後となる募集試験の案内チラシを挟んだポケットティッシュ約3000個の配布を行った。

静岡駅前では、午前7時30分から本部長自ら陣頭に立ち、通勤途中の若者ら一人一人にポケットティッシュを手渡し、本年度最終試験の告知を広く実施した。街頭では、普段見慣れない制服姿の自衛官の活動に興味や関心を示しつつ、ポケットティッシュを受け取る姿が見られた。

静岡地本は、本年度募集期間の最終日まで、高い信念と執念で一人でも多くの自衛官志願者獲得を目指し、募集活動を実施していく。